

食料品に対する私の考えとフランス留学

高橋 海帆 (コミュニティ政策学科4年)

『あなたが世界を変える日』という本がある。この本は、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットで、当時10歳だったセヴァン・スズキさん(以下、セヴァンとする)という少女が話したスピーチを、文章に起こしたものである。

彼女は、幼い頃から動物や自然が大好きで、家族で自然に触れ合う生活を送っていた。ある日、家族旅行から帰る飛行機の中で燃えるアマゾンの森を目撃し、自然を守ることや人間と自然の共生について考えるようになったのだという。

セヴァンが地球サミットでスピーチを行ったのと同じ10歳の時、私はこの本を父親からプレゼントされた。当時の私にとって、この本はとても衝撃的であり、フランス留学まで果たした今の自分を作るきっかけであったと思っている。広島で生まれ、市内育ちとはいえど、長期休暇には海や川で遊び、田舎へ訪れていた私にとってセヴァンの人柄は共感を得やすく、彼女のスピーチには心を打たれた。そして、彼女のように、自分から何かを発信したいと考えるようになった。また、環境問題というテーマに興味を持ち始めたのも、この時期であった。

私は現在、大学で「貧困と環境問題の関連性」について関心を持っており、特に「食」や「食糧生産」、「食べ物の流通」という観点からこの問題について考えを深めている。

きっかけは、大学3年生時に受講した授業で観た映像資料だ。その映像は、フィリピンで生産される輸出用バナナの生産状況についてまとめた物だった。映像の中のバナナ農園では、農家が大量のバナナを農薬や機械を用いた近代農法で生産しているのだが、低賃金の労働は農家の人権を全く無視したものだだった。

この現実を突きつけられ、正直、私はとても戸惑った。そして、日本で消費される食品や食べ物の内どれほどの量が海外から輸入されているのか知りたいと思うようになった。確かに、海外からの輸入食品は安い。そして、肉や魚介類、穀物、果物など、私の生活に欠かせない物の多くが食料輸入に依存していると言っても過言ではない。しかしながら、問題点も多い。以前は輸入された牛肉から狂犬病が発見され、冷凍食品からは農薬が検出された。また、加工食品においてはラベルの表示欄の偽造事件も見られている。果たして、私たちが食べている食品は、安全なのだ

ろうか。そして、私たちが食べる物には、どのような背景があるのだろうか。もしも、フィリピン産バナナのように現地の労働力が安価で酷使されているとすれば、私は買い物をする時に、少し考えてしまう。最近、鶴見良行の著書である『バナナと日本人—フィリピン農園と食卓のあいだ』を読んだのだが、この本を読んでからというもの、バナナを買うことに少し抵抗を感じるようになった。

しかし、学生の身であり、両親の援助を受けて学生生活を送る上で安価な食べ物はどうしても必要だ。そこで、近くのスーパーマーケットで販売されている食べ物を比較してみることにした。

一般的に、オレンジなどの柑橘系果物はほとんどがアメリカ産やイタリア産であり、肉類はアメリカ産、オーストラリア産、ブラジル産も見られた。一方、魚介類ではフィリピン産やチリ産、ベトナム産が多い。魚介類は比較的アジアからの輸入が多いようだ。これらの値段はかなり安く、バラ売りでは100円以下から高くは120円くらいまで、パックに入った物ならば150円程度から200円や300円で購入できる。日本国内で生産された野菜や果物は輸入食品と比べると少し高価で、50円から100円の幅でバラ売りも詰め合わせも高くなる。これらの物以外では、特定の産地の名産品の場合、さらに値段が増す。また、有機農法で生産された農産物も単価が高い。

広島を離れ東京で暮らす中で感じたことは、私たちは思いの外、食物にお金をかけており、そして、食べ物がありすぎるのではないかという疑問だ。また、近頃は有機野菜をたくさん見かけるが、なぜ有機野菜の方が輸入食品より高いのかということである。確かに農業や肥料を使わない点において栽培に手間がかかるのはわかる。しかし、有機作物は国内生産が一般的でありましてや、大量の化学肥料を使う必要はない。私はここにどのような仕組みで有機作物が高くなるのか知りたい。

これらの疑問や問題の解決を夢見て、立教大学の交換留学に挑戦した。

立教大学は、フランスにある4つの大学と協定を結んでおり、私はその中のリヨン第三大学に2017年8月末から2018年7月中旬まで留学をする。2017年8月現在、すでにフランスに入国し、リヨンで生活を送っている。こちらの暮らしは、手続きや言語の煩わしさを除けば、思っていた以上に快適である。生活をするにあたってすでに何軒かのスーパーマーケットへと足を運んだが、どの食品も安価で驚いた。日割りで円とユーロのレートは変化するため、一概にいつでも安いというわけではないが、リヨンの食材費は比較的に安いと思われる。また、生鮮食品の多くがフランス産であることにも驚いた。しかしながら、日本と同じく有機作物や、有機作物を使用した加工食品は、やはり少し高価である。フランスでは、有機野菜やそれらを使用した食品にはBio、と記されている。先日、Bio表記のついたパンを購入したが、私自身、とても美味しくいただいた。穀物があまり精製されていないものを

使ったパンであったが、一般的な食パンより味が濃く、香りも好ましいものであった。慣れつつあるフランスでの生活に加え、学問的な疑問にもしっかり向き合うために、この機会を生かしたいと思う。

今、私は語学の向上や自分の研究のために海外留学という貴重な経験をしている。これは、とても素敵なことであり、何より私自身が現在の生活をととても楽しんでいる。フランスという農業生産国で日本とは違う食料事情を発見し、何か一つでも私の研究につながる鍵を見つけたいと思った。